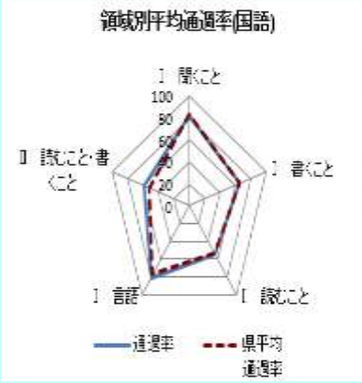
別紙3

指導方法等の改善計画について　〔　国語科　〕

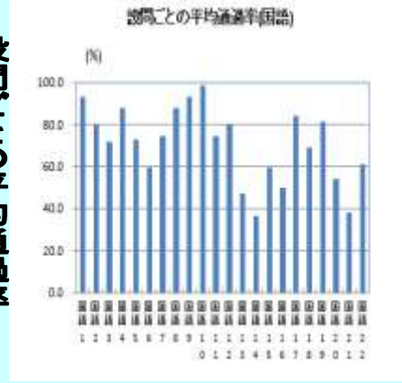
三原市立三原小学校

「基礎・基本」定着状況調査　本年度通過率（本校 71.0%，県 68.0　%）

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度通過率

A問題

本校	78.0%
広島県	77.0%
全国	74.8%

B問題

本校	61.0%
広島県	61.0%
全国	57.5%

本年度の結果について

◎「基礎基本」定着状況調査
◇全国学力学習状況調査

○取組の成果と課題

書かれた文章の形式を参考にして，資料から理由を選んで紹介文を書いたり，与えられた条件に沿って理由を書いたりする問題に課題があった。三原小授業モデルを活用しながら，単元を貫く言語活動を設定し，児童が目的に応じて中心となる語や文をとらえながら文章を読む学習や，記録文，報告文，説明文などを取り上げ，その特徴を理解させる指導に重点をおいた取組を行った。しかし，十分に力に付いているとはいえない。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題

◎国語科の結果において，タイプⅠは74.5%，タイプⅡは55.4%の通過率となっている。この結果から，基礎問題，活用問題も県平均を上回っており，一定の定着が見られるが，目的や必要に応じて情報を取り出し段落相互の関係を考えて文章を構成して記述する問題に課題が見られた。

◇国語Ｂ「読むこと」の領域において，登場人物の相互関係や心情，場面について描写をとらえる問題に課題が見られた。

重点課題

◎基礎基本定着状況調査
◇全国学力学習状況調査

◎「読むこと」においては，場面の移り変わりに注意しながら，叙述を基にして登場人物の気持ちを捉え，その変化の理由を説明する問題（通過率37.8%）に課題がある。これは，文章の叙述を根拠に，登場人物の気持ちを想像し，想像したことを話したり書いたりする活動が十分でないことに原因があると考えられる。「書くこと・読むこと」において，情報の取り出し，それらを関連付けて記述をする問題（通過率35.1%）に課題がある。資料の中から目的や必要に応じて複数の情報を取り出し，それらを関係付けて文章を構成することが難しい。

◇「読むこと」において，登場人物の相互関係と場面についての描写をとらえ，（　）に当てはまる言葉として適切なものをそれぞれ選択することが難しい。

標準学力調査に向けた重点取組

・文章の叙述を根拠に登場人物の気持ちの移り変わりを捉えたり，書かれた文章の内容や形式を参考にして，紹介文を書いたりすることに課題がある。授業と繰り返し学習を通して次の通り取組を行う。

【授業】

物語文の叙述を読み取り，根拠を明確にして登場人物の気持ちを想像し，ノートにまとめたり，ペアや全体で考えたことを説明し合ったりする授業を行う。

【繰り返し学習】

本校で独自の聞き取り問題文を作成し，作成した文章を用いて，朝会や桜山タイムで，繰り返し文章を書く練習をさせる。物語の叙述を基に登場人物の気持ちを読み取り，読み取ったことを相手に分かりやすく説明したり書いたりする指導を授業や桜山タイム（読解問題を活用）に行う。

取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等（職員）		聞き取り問題文の開発・作成	公開研究会	フォローアッププリントを作成・研修				
児童への取組	【授業】アクティブラーニングを導入した授業の実施（とらえ方・考え方を大切にした授業やノート指導・対話を取入れた授業等の実施により，論理的思考力を育む）							
		【繰り返し学習】朝会や桜山タイムに聞き取り・再話の練習，読解問題の実施，フォローアッププリントの取組						
					【見取り】学期末テスト（平均８５点）	【検証】標準学力調査 目標値＝（全国平均＋８ポイント）		学年末テスト（平均８５点）

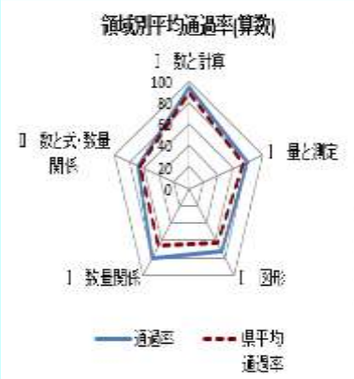
別紙3

指導方法等の改善計画について　〔　算数科　〕

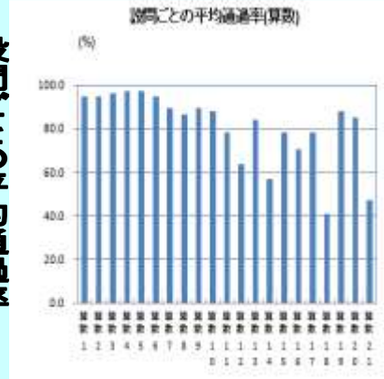
三原市立三原小学校

「基礎・基本」定着状況調査　本年度通過率（本校 82.6%，県 74.3　%）

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度通過率

A問題

本校	85.0%
広島県	81.0%
全国	78.6%

B問題

本校	54.0%
広島県	47.0%
全国	45.9%

本年度の結果について

◎「基礎基本」定着状況調査
◇全国学力学習状況調査

○取組の成果と課題

昨年度は，計算結果を目的に応じて処理する問題や，2 つのグラフを関連付けて解決する問題に課題が見られた。そこで，情報を整理し，筋道立てて考える力を育むために，三原小授業モデルをもとに，自分の考えを説明するだけでなく，友達の解決方法を説明する場面を設定したり，ノート指導に力を入れた取組を行ったりしてきた。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題

◎算数科の結果において，タイプⅠは86.8%，タイプⅡは69.2%の通過率となっている。この結果から，基礎的・基本的な内容については一定の定着がみられるが，複数のグラフを関連付けて考察したり，事象を解釈し，根拠の説明をしたりする問題に課題が見られた。

◇示された資料から必要な数値を選択し，その求め方と答えを記述する問題に課題が見られた。

重点課題

◎基礎基本定着状況調査
◇全国学力学習状況調査

◎「数量関係」領域で，二つの折れ線グラフを関係付けて理由を説明する問題（通過率 43.2%）に課題がある。多くの児童が，２つのグラフから数値を読み取り比較して説明することができていなかった。

◎「数量関係」領域で，事象を解釈し，計算式を活用して数値を求め，理由を説明する問題（通過率 48.6%）に課題がある。計算式を使って数値を正しく求めたり，数値を根拠に筋道を立てて説明したりすることができていなかった。

◇小さい封筒で手紙を送る場合と大きい封筒で手紙を送る場合の，料金の求め方と答えを書くことが難しい。

標準学力調査に向けた重点取組

・2 つのグラフを関連付けて解決する問題や計算結果を根拠に筋道を立てて説明する問題や，答えの求め方を各問題に課題がある。授業と繰り返し学習を通して次の通り取組を行う。

【授業】

グラフなどの複数の資料を関連付けて読み取ったり，求めた数値を根拠に考察し，筋道立てて説明したりする力を育むために，自分の考えや答えの求め方をナンバリングしてノートにまとめたり，ペアやグループで説明し合ったりする活動に継続して取り組む。

【繰り返し学習】

伴って変わる数量の問題や表やグラフから考察する問題など，問題プリントを活用したり，日常生活や他の教科と関連付けて学習したりするなど，桜山タイムや宿題で繰り返し練習をさせる。

取組計画表

	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
校内研修等（職員）	フォローアッププリントの作成	示範授業をもとに授業のポイントを学ぶ	公開研究会					
	ＮＣＣ：学びの活性化　授業力の向上の取組							
児童への取組	【授業】アクティブラーニングを導入した授業の実施（とらえ方・考え方を大切にした授業やノート指導・対話を取入れた授業等の実施により，論理的思考力を育む）							
			【繰り返し学習】桜山タイムや宿題でフォローアッププリントの取組					
					【見取り】 学期末テスト （平均８５点）	【検証】 目標値＝標準学力調査 （全国平均＋８ポイント）		学年末テスト （平均８５点）

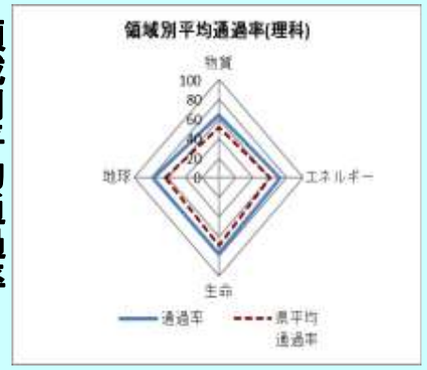
別紙3

指導方法等の改善計画について　〔　理科　〕

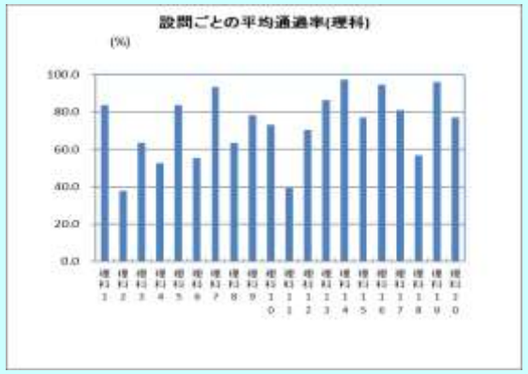
三原市立三原小学校

「基礎・基本」定着状況調査　本年度通過率　（本校 71.8%，県 61.7%）

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○取組の成果と課題

昨年度は，「地球」領域の，太陽の動きと影の関係を読み取る問題と「物質」領域の，物の重さと体積の関係を読み取る問題に課題が見られた。そこで，情報を整理し，観察したり実験したりしたものの関係を考える力を育むために，調べたことをノートに整理し，整理したことをペアやグループで話し合い，自分の考えを書く指導を行った。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題

◎理科の結果において，タイプⅠは 79.9%，タイプⅡは 61.9%の通過率となっている。この結果から，基礎問題，活用問題も県平均を上回っており，一定の定着がみられるが，空気の体積変化を調べる検証方法を考えることや手に持つことのできる物を観察する時の虫眼鏡の使い方に課題がみられた。

重点課題

◎「生命」領域の，虫眼鏡の正しい使い方（通過率 37.8%）に課題がある。手に持つことのできるタンポポを観察する時，手に持つことができるものは持ったものを動かし，手に持てない物は虫眼鏡を動かして観察するなどの正しい使い方が理解できていない。

◎「物質」領域の，空気を圧した時の体積変化を検証する問題（通過率 40.5%）に課題がある。空気鉄ぽうを圧した時，空気に押されて前玉が飛び出すわけを推論し表現することができていない。

標準学力調査に向けた重点取組

・「生命」の領域については，正しい実験観察器具の使い方を再度復習していく。

・「物質」の領域については，推論したことを，書いたり説明したりする機会を増やしていく。

【授業】

課題となった問題を，実験や観察を通して体験させ，ノートに文章や絵や図で表現したり，ペアやグループで話し合ったりする時間をとる。また，理科の実験観察器具の正しい使い方を，繰り返し復習し適切に使えるようにしていく。

【繰り返し学習】

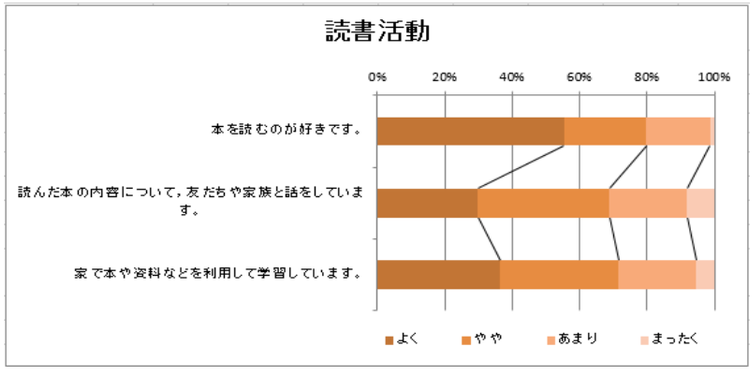
推論し考え記述する市販の問題プリントを使用したり，校内で作成したりして，桜山タイムや宿題で繰り返し取り組ませる。

取組計画表

	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
校内研修等（職員）			公開研究会	記述式プリントの検討・作成	課題のある問題の取組方についての研修			
児童への取組	【授業】アクティブラーニングを導入した授業の実施（とらえ方・考え方を大切にした授業やノート指導・対話を取入れた授業等の実施により，論理的思考力を育む）			【繰り返し学習】桜山タイムや宿題で記述式プリントを実施	【見取り】学期末テスト（平均８５点）	【検証】標準学力調査（全国平均＋８ポイント）		学年末テスト（平均８５点）

別紙３　　質問紙調査　（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

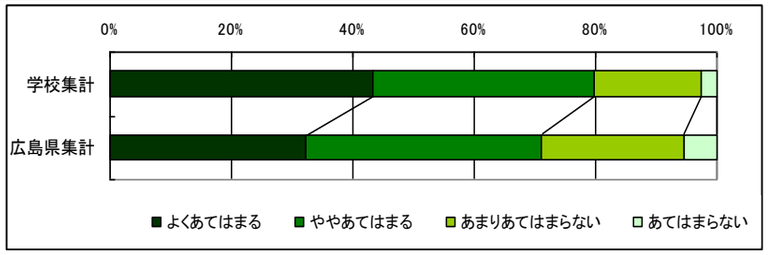
（１）生活・学習



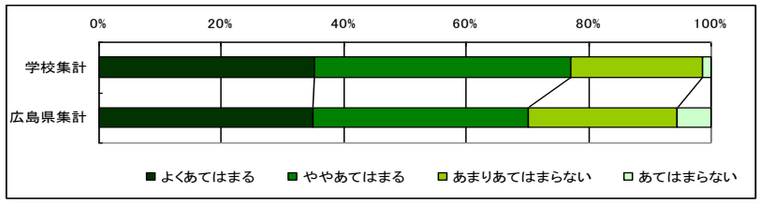
児童の回答についての課題（**現状値**）	今後の具体的な取組の内容	学年	**目標値**	検証方法	検証時期	**実施数値**	現状値からの伸び
読書には興味をもち，意欲的に取り組むが，読んだ内容をまとめたり，話したりすることが課題である。（68.9%）	朝読や月１回の読書対話，読書貯金，学年で必読書を決め達成した児童を表彰するなどの取組を継続するとともに，全校朝会や桜山タイムで，話の聞き取りや再話をさせることで，聞き取った内容を表現させる取組を行う。	5	肯定的評価（70.0%）	児童アンケート調査	12 月		

（２）教科

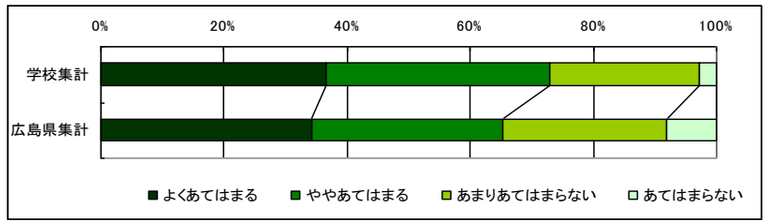
目的に応じて資料を読み，自分の考えを話したり，書いたりしています。



算数の授業では，とき方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では，自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



	児童の回答についての課題（**現状値**）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	**目標値**	検証方法	検証時期	**実施数値**	現状値からの伸び
国語	複数の資料の中から必要なことを選択し，目的に応じて，資料と関連付けながら自分の考えを表現することが課題である。（79.7%）	資料を根拠に自分の考えをノートにまとめ，相手に説明する学習を行う。また，まとめた考えを，ペアやグループで話したり検討したりする時間を設定する。	5	肯定的評価（82.0%）	児童アンケート調査	12 月		
算数	どの項目も県平均より高かった。その中でしいていえば，既習を活かして問題を解き，考え方の根拠を多様な算数的表現を用いてかいたり，説明したりすることが課題である。（77.0%）	説明をするときの手立てとなるように，キーワードや図をかくなど，板書を工夫する。ノートに説明を書いたり，ペアやグループで説明し合ったりする活動を多く取り入れ，一人一人が説明する機会を増やす。	5	肯定的評価（79.0%）	児童アンケート調査	12 月		
理科	昨年同様，自分の考えを周りの人に説明したり発表したりといった話す活動に苦手意識をもっていることが課題である。（73.0%）	自信をもって，説明したり，発表したりすることができるように，自分の考えをノートに工夫してまとめる活動の充実を図る。	5	肯定的評価（75.0%）	児童アンケート調査	12 月		